

令和7年度東海三県二市知事市長会議 議事録

日 時：2025年9月8日（月）13:30～

場 所：岐阜県庁20階会議室

1 開会

【事務局長（岐阜県総合企画部長）】

それでは、ただいまから令和7年度東海三県二市知事市長会議を開催いたします。

私は、本日、進行を務めさせていただきます岐阜県の総合企画部長の市橋でございます。
よろしくお願ひいたします。

それでは、開会に当たりまして、開催県の江崎知事から御挨拶を申し上げます。

2 あいさつ（岐阜県知事）

【江崎禎英知事】

皆様、改めまして、ようこそ岐阜県にお越しいただきまして、ありがとうございます。

まだまだちょっと暑い日が続きますけれども、ぜひ東海三県二市ということで、またいろいろな取組ができたらありがたいかなと思っております。

そして、先ほど来御覧いただいておりますけれども、会場をどこにするかという議論があつたんですけども、この建物は建ってまだ3年経っていないということで、それと、御覧いただきましたように、眺望がまさに濃尾平野を全て一望にすることができるということで、この場所を選ばせていただきました。

このロビーも週末、それまでは解放されていなかったんですけど、私になってからとりあえず週末開放し、夜も8時まで解放します。そして、花火のときは夜9時までということで、この間の長良川の花火も大変好評でした。

あと、あんまり暑いので、夏休みの期間、子供たちが勉強する場所がないということなので、休みの日にはこの会議室も開放して、休める場所ということで、県民の皆さんのが財産でありますので、徹底的に使っていただきたいということでやらせていただいております。

今日は、皆様にも新しい建物ということで御覧いただいて、今日は20階ですけど、また今度お越し頂きましたら、6階の私がおりますフロアはほとんど全て県産材で、廊下も全部木でありますので、またぜひ岐阜県ならではをお楽しみいただけたらと思っております。

そして、午前中には坂口捺染さん、まさに「働いてもらい方改革」、この後すぐまた議論させていただきますけれども、本当に若者や女性に選ばれるまちになるための新しい取組かなという気がしております。

あのような新しい取組のところ、今20社以上県内にあります、そうしたところから新しい時代の流れをつくっていかなければと思っております。

そしてもう一つ、このメンバーでぜひ議論させていただきたいのは、南海トラフでございます。いつ来てもおかしくないという中で、本当に大変いろいろな被害予測があるんですけれども、事前の一策は事後の百策に勝るということで、連携していけましたらと思っております。岐阜県の場合は海がございません。津波はないんですけど、もちろん被災県であると同時に、被害に遭った被災者の方を受け入れさせていただく、そんな立場でもあるかと思いますので、今のうちからいろいろ連携させていただければありがたいかなと思っています。

そして、いよいよ1年後に迫りましたアジア競技大会、アジアパラ競技大会に向けた取組ですね。先ほど法被を着て、今日ちょうどマスコットもいらっしゃいますけれども、やはりこの地域が一緒になって取り組むということによって、またこうした会議も盛り上げていけるといいかなというふうに思っております。

そして、今少し御覧いただきましたけれども、高速道路が見えたかと思うんですけれども、おかげさまで8月30日に、最後残っておりました本巣から大野神戸がつながりました、県内はこれで全てつながりました。そして、いよいよ三重県さんとつなぐことによって、またこの地域がさらに発展するかなというふうに思っております。そして、この日本の真ん中にあるこの地域がいかに発展するかということは本当に大事なものとなりますので、ぜひ今日の会議が実り多きものになりますことをお願いいたします、開会の御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局長】

それでは、ただいまから会議を進めてまいります。

本日の会議につきましては、14時40分の終了を予定しておりますので、皆様の御協力を
お願いいたします。

時間の管理のため、発言時に「残り30秒」と「お時間です」という表示をさせていただきますので、参考にしてください。

それから、お手元のタブレットにつきましては、事務局のほうで操作をして進行に合わせて変わっていきますので、そのまま御覧ください。

では、会議の座長につきましては、慣例により開催県の岐阜県知事とさせていただきます。

江崎知事、よろしくお願ひいたします。

3 議事

【江崎知事】

それでは引き続き、私があまり長くしゃべると時間も過ぎそうなので、ちょっと控えたいたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

本日ですけど、3つのテーマを掲げさせていただいております。

まずは、魅力ある「働き方」「職場」づくり、特に「若者・女性に選ばれる地方」という関係で議題が1つ。そして、2つ目が、今申しました南海トラフ、さらにはアジア競技大会、パラ競技大会ということで、この3つのテーマでお話をさせていただければと思っております。

それではまず最初に、お手元のタブレットに立ち上りました協議話題1「若者・女性に選ばれる地方」を実現するための魅力ある「働き方」「職場」づくりということでございます。

資料のほうを開けていただきますと、残念ながら日本は東京一極集中ということでどんどん若者が出ていってしまう。特に若い女性が出ていってしまう。よく仕事があればという人がいるんですけど、岐阜県の有効求人倍率は1.5を超えてます。それでもやっぱり人がいなくなるということは、選ばれる働き方、それが必要かなと。そしてもう一つは、いわゆるアンコンシャス・バイアスといって、男性の役割、女性の役割ということを無意識に押しつけているのではないかと。そういうことをやっぱり変えていかないと、人口減少、特に子供を産みたい人たちが東京に行き、狭い部屋、高い物価の中で人口が減ると、その流れを変えるには、地方がどういう環境を提供できるかというのは重要なかと思っております。

次のページを御覧いただくと、今日午前中に御覧いただきました坂口捺染さんに代表されるように、特に岐阜県では「働き方改革」から「働いてもらい方改革」ということで、何が違うのというと、「働き方改革」というのは、今までの高度成長期に、気合と根性、徹夜・残業は当たり前というのを変えて、できるだけ長時間労働をやめて休息を取るようにという、今働いている人の改革が働き方改革。

それに対して「働いてもらい方改革」というのは、今働きたいんだけど働けないなという人が、実はこの国に70万人近くいらっしゃいます。特に女性を中心に、子育て中だったりとかいろいろ障害があったり、高齢になったり、でも働きたいという方、それがフルタイムでなければ働けないということの中で、相当数になっている。今日御覧いただいてお分かりのとおり、働きたい時間に働くのが一番生産性が高いと。まさに社会的弱者から優先的に採用されている坂口捺染さん、売上げが10年間で10倍になる。単なる、ある意味社会保障的なことではなくて、企業としてもやはり生産性が上がっていく、そして環境がどんどんよくなる、こうした仕組みをしっかりこれを、たまたまエピソードではなくて、社会全体の仕組みとして広げていきたいというふうに考えております。

今日おっしゃっておられたように、9時から15時というのは子供より先に家に帰る、それができることによって、今まで働けていなかった方々が働く環境になると。岐阜県では、こうしたことを進めるために、優良事例ということで、左下のほうにもありますけれども、坂口捺染さんに代表されるような会社を20社ピックアップして、面白いのが、ほぼ共通しているのは女性が働きやすいということ、そして業務を細分化しているということ、多能工化していること、あと、坂口捺染さんはそこまで行っていませんけど、ITを使って遠隔でできる、というようなことがほぼ共通する流れになっておりますので、こうした取組を行う企業さんに対してパワーアップ、そして「働いてもらひ方改革」、こうした働き方を変えることを応援すると、そんなことを進めている取組をしているところでございます。

こうしたこと進めることによって、若者や女性に選ばれる地方、女性が働きやすい環境は男性も働きやすいし、高齢者も障害のある方も働く、そんな環境を目指して進めていきたいというふうに思っております。

私からは以上でございます。

それでは、この件につきまして、皆様からもぜひ順次御発言を賜ればと思いますので、愛知県さん、三重県さん、名古屋市さん、浜松市さんの順番でお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

では、大村知事さん、お願ひします。

【大村知事】

はい、ありがとうございます。

今年度の東海三県二市知事市長会議を開催いただきました江崎知事はじめ岐阜県庁の皆さんに心から感謝を申し上げたいというふうに思っております。

大変すばらしい県庁舎、すばらしい眺めのところ、私も初めて来させていただきましたが、拝見させていただきありがとうございました。

それでは、今日の話題にあります第1でございますが、「若者・女性に選ばれる地方」ということで、「働き方」「職場」づくりについて。

坂口捺染さんというすばらしい会社を拝見させていただきありがとうございました。元気な会社を拝見すると、本当に我々も元気をもらえるような気がいたします。この夏は、甲子園の話題で大分有名になりました。「あ、この人か」とすぐに思いました。おじいちゃんも出てきて、「ああ、そうだそうだ、出ていたな」と思いました。ありがとうございます。

さて、私からは簡潔に、「若者・女性に選ばれる地方」づくりということで、愛知県における魅力ある「働き方」「職場」づくりの取組を御紹介させていただきます。

資料を御覧いただきたいと思いますが、まず若者が働きたいと思える職場づくりの推進でございます。

多くの若者が就職先を選ぶ際に、仕事とプライベートの両立を重視しております。本県では、中小企業における休暇を取得しやすい職場環境づくりや男性育児休業の取得促進への取組を推進しております。

具体的には、ワーク・ライフ・バランスの充実、生産性向上による日本経済の活性化を目指すため、愛知県「休み方改革」プロジェクトに取り組んでおり、その一環として、あいち県民の日が11月27日で、その前1週間をあいちウィークとして平日に休暇を取得しやすいようにお声掛けをさせていただいております。そのうち平日1日を、県民の日学校ホリデーということで学校を休みにして、3連休か4連休にして、特に学校の教職員の皆さんには休んでいただこうという形で取り組ませていただいているところでございます。休みの平準化、観光需要の平準化を取り組んでおります。

それから、連休の取得を積極的に推進している中小企業などを、愛知県休み方改革マイスター企業として認定をしておりますし、また県内企業に対しまして勤務間インターバルというような制度の導入も働きかけをしているということでございます。

また、男性従業員が育児休業を取得しやすい職場づくりを支援するための奨励金を、県の事業として支給をしているということをやっております。

続いて2つ目、女性の活躍促進に向けた取組の推進でございます。

製造業の盛んな地域は、女性の割合が低いという傾向もありまして、本県の20歳代、30歳代の女性の数は、同年代の男性100人に比べて90.3人ということで、全国で8番目に少ない数となっております。これでも大分、10年ぐらい前とか、7、8年ぐらい前までは全国ワースト1位だったんですけど、ほかの県でそういったところが出てきたということなのかもしれません、という状況でありまして、それではいけませんので、女性の活躍促進に向けた取組として特に力を入れておりますのが「あいち女性輝きカンパニー」の認証制度でありまして、女性の活躍に向けた取組を積極的に実施する企業を認証しております、働く場における女性の定着と活躍を図っております。このほかにもここにありますように、女性が元気に働き続けられる愛知を目指して様々な取組を進めているところでございますので、どうぞよろしくお願ひいたします。以上です。

【江崎知事】

ありがとうございます。

では、三重県さん、お願いします。

【服部副知事】

今回の会議で、江崎知事はじめ岐阜県の皆さん、大変お世話になっております。非常に立派な県庁で、羨ましく見させていただいております。

ちょうど昨日知事選がございまして、本日は一見知事は欠席をさせていただいておりまして、代理出席とさせていただいております。大変申し訳ありません。再選をいただきま

したので、また引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

資料に基づいて御説明だけさせていただきます。

三重県におきましても、転出超過の約8割が15から29歳の若者ということで、特に進学・就職の際の転出が主な要因になっております。中でも、女性の割合が非常に大きくて、三重県人口の6%しかいない15から29歳の女性の転出が全体の4割ということで、非常に大きな問題かなというふうに考えておりまして、その背景としては、やはりジェンダーギャップの存在が指摘をされているところでございます。ちなみに、経済分野でジェンダーギャップの指数としては、全国46位という非常に不名誉な地位にございます。

こうしたジェンダーギャップの解消に向けては、知事と県内企業で働く女性との意見交換、こういったこともさせていただいておりまして、これからもこういう機会をぜひつくって、いろんな声を吸い上げていきたいというふうに考えております。

それからジェンダーギャップの視点で、アンコンシャス・バイアスの課題等があると思いますので、そういった一つ一つの課題を可視化して、次の改善につなげていく必要があると考えておりますし、特に経済分野におきましては、取組の方向性、こういったものをきちんと示させていただいて、その上で県全体として、オール三重で、こういった取組を進めていく必要があるというふうに考えております。

令和7年度におきましては、このジェンダーギャップの解消に向けて、基本戦略、これは仮称でございますけれども、そういったものを策定させていただいた上で、特に今日もいろいろ働きやすい職場ということで御紹介がありましたけれども、やはり一つは短時間正社員、こういった制度の導入に向けた活用の促進、こういったものに少し交付金等を充てて、なかなか経済分野は進まないところもございますので、そういったところをぜひ1つでも2つでも推進できるようなことを考えていきたいなと思っております。

それから、子ども全体として、子どもの育ちということで総合補助金をつくっておりますけれども、その中で家事代行サービス、こういった利用補助を促進することによって、女性が働きやすいということにつなげられないかなと、こういったことも考えているところでございます。

また、県庁内もやはりジェンダーギャップあるかと思っておりまして、職員で解消チームを設置いたしまして、こういった県庁内の改革も取組をしたいというふうに考えております。

私からは以上でございます。

【江崎知事】

はい、ありがとうございました。

それでは、名古屋市さん。

【広沢市長】

名古屋市長の広沢でございます。

本日午前中、別件公務で参加できずに大変失礼いたしました。

それでは、名古屋市のほうから、取組について御説明をさせていただきます。

まず、若年層である20代、30代、国の社会動態の状況について御説明をさせていただきます。

令和6年は約1万3,000人の転入超過となっておりますけれども、地域別の社会増減では、関東圏への転出超過が非常に大きく課題となっているというところでございます。この社会増減を見ますと、まだ名古屋が社会増を得られるのは、一つは近隣の市から流入いただいている、そしてあともう一つは外国人が増えている。これが増加要因として、減少要因は明らかに関東圏への流出というところでございます。

これは、本当にずっと長く東京へ流れているのが続いているんですけども、これがいまだ収まらないどころか、最近ちょっと顕著になっているという状況でございます。そして関東への転出超過においては、30代と比較しても20代が増加傾向にあるということで、20代は大学進学して就職、こういった機会に転出超過が非常に多くなっているというところでございます。

この名古屋市におきましても、今後本格的な人口減少を迎えようとしている中、この魅力的な「働き方」「職場」づくり、こちらを推進しまして、選ばれるまちになっていくということが非常に重要であるというふうに考えております。

続きまして、その下のほうの、働きやすい職場づくりに係る認定・認証制度というのをやっておりまして、名古屋市におきましては働きやすい職場づくりにつきまして、この認定、そして認定・認証制度としましてワーク・ライフ・バランス推進企業、女性の活躍推進企業、そして子育て支援企業、こういうことを設けております。それぞれ一定の基準を満たす企業を認定して、その企業のPRにも御活用いただくとともに、そういう取組を紹介することで、産業人材の確保を図っていきたいというふうに考えております。

続きまして、中小企業に対する人材確保の支援についてでございます。

名古屋市におきましては、中小企業人材確保相談窓口、こちらを運営いたしまして、若者や女性の採用、定着といった中小企業が抱える人材確保に関する課題につきまして専任の相談員が課題整理や助言などの支援を行っております。さらに、中小企業人材確保相談窓口で相談を行った者、中小企業に対しまして、働きやすい職場づくりや魅力の発信など、それぞれ課題に応じた専門家を派遣しまして、個々の企業の現状や課題に寄り添った支援を行っているところでございます。

続きまして、下のほうの女性の活躍推進事業でございますが、やはり女性の活躍、これを全面的に後押しするというつもりで活躍推進事業というのを行っております。この活躍推進は、単に一部というだけじゃなく、社会全体の課題として捉えまして、女性、男性、そしてまた企業、若年層を対象に多様な主体、そして世代に向けた事業を展開しております。

す。

女性社員のキャリア形成支援、そして男性の家事・育児参画促進、また企業向けのセミナー、大学への意識啓発、また共働きカップルのロールモデル発信など、いろいろな取組を通じまして、誰もが活躍できる環境づくりを進めておりまして、こういうことが奏功して、この女性の定着につながるように、それを目指しております。

続きまして、次世代のイノベーションへの取組ということで、これもやはり若者であるとか女性であるとかに選ばれる、こういうためには、この地域がやはり何といつても東京に負けない魅力的なビジネス環境を持つまちであり、自分の能力を生かせる仕事があると、こちらが大事であると思っております。

やはり仕事はこの地域にたくさんあるんですけど、就きたい仕事がないということで東京圏へという、これが課題だというふうに考えておりますので、その取組の一環といたしまして、皆様方と一緒に取り組んでいるスタートアップ・エコシステム「グローバル拠点都市」の取組について、第2期からは岐阜県、三重県、静岡県様にも加わっていただきまして、この地域一丸となってのスタートアップ創出、こちらに取り組むことで、女性にやりがいのある、そういう働きやすいまちになっていくというふうに考えております。

以上、本市の取組を御紹介させていただきました。ありがとうございます。

【江崎知事】

はい、ありがとうございます。

先だって、このメンバーでお邪魔させていただきましてありがとうございました。

では、浜松市さん、お願いします。

【中野市長】

浜松市でございます。

今日は、江崎知事はじめ岐阜県の皆さんにはすばらしい観察先、またすばらしい会場を御用意いただきまして本当にありがとうございます。

それでは、浜松市の状況でございます。

我々浜松市も、御多分に漏れず人口減少、そういう局面にあるわけでありますけれども、とりわけその要因としては、若者の域外への流出、これが大きな原因になっているというふうに思っております。

若者の流出を考えますと、一つには進学、もう一つには就職のタイミングで出ていってしまう。進学については、残念ながら我々浜松、魅力的な高等教育機関がたくさんあるわけではありませんので、一旦域外に出るというのは仕方がないと思いつつ、ただ一方で就職先という点では、魅力ある企業というのは実はたくさんある、それが十分に知られていないというのが大きな課題だというふうに思っておりまして、そういったこともあって、地元商工会議所と連携をいたしまして、地元企業と若者のマッチングを図るマッチングア

ドバイザー派遣などにも取り組んでいるところでございます。

また、我々浜松、ものづくりのまちというイメージがありまして、とりわけ文系の女性にとては働き口がないとこれまで思われがちなわけでありますけれども、実はそうではないということをよく知ってもらうために、文系女子の活躍促進事業、そういうことに今年度から取り組み始めたところでございます。

それから、次にまいりまして、せっかく地元に戻ってきてもらった若者も、いずれ結婚して家庭を持ってから子育て世代になったときに、地元では十分に活躍ができないということでは、またこのまちが捨てられることになりかねないということもございます。子育て世代にとっても、その活躍を応援する、そういう企業がたくさんあるという環境をつくり出すために、今年からまた子育て世代の活躍を後押しする企業のコンテストなどを始めるところでございます。

それから最後に、女性に選ばれるまち、これも今全国的にも課題になっているというふうに思っておりますけれども、今浜松で活躍をされている女性にスポットを当てて広く発信をする。また、小さなことかもしれませんけれども、生理用ナプキン、いろいろなところで気軽に手に入るような、そういう事業、さらには女性が安心して活躍できる環境づくりの補助、女性活躍促進セミナー、そういうようなことが女性に選ばれるという点でも一歩進められるよう、今取組を進めているところでございます。以上でございます。

【江崎知事】

はい、ありがとうございました。

それぞれの取組を御紹介いただきました。共通の課題というのは、やっぱりそこなんだなと思うのは、名古屋市さんも含めて、東京に行ってしまうと。そこで何を求めていくのかというところを本当に掘り下げることが重要かなと思いますけど、今皆様方のお話を伺っていて、まずアンコンシャス・バイアスです。実は、恥ずかしながら女性社長比率、我が岐阜県、14年連続最下位なんです。すみません、下から2番目は愛知県なんです。

これがニュースになるとどう言われるかというと、決まって中部はものづくり県ですからという説明で終わるんです。これって、そのままアンコンシャス・バイアスではないのかということです。ものづくりだったら女性は社長になれないのかというと、そこは、今御紹介があったようにいろんな取組が大事だということと、やはりおしゃれであるということ、かっこいいということ。この間のイベントもそうであったようにスタートアップ、今ある職場で魅力がないんだったらつくってしまえばいいじゃないかと。そういうことができる環境を後押しするためには、やっぱりアンコンシャス・バイアスとの闘いになるのかなと。

今日は首長の皆様ですから、まさに音頭を取って、それぞれの組織から変えていただくことによって、また未来が開けるのかなと。とにかく、やっぱりキーワードは女性だなというところで、選んでいただけそうな取組を進めていけたらいいかなというふうに思って

おります。

ちょうどお時間が来てしまいまして、特に追加でどうしてもこれを言わないとというのは大丈夫ですか。また最後に戻ってまいりますので、そのときによろしくお願ひいたします。

それでは、次のテーマです。南海トラフ地震の対策でございます。

これも、本県から提案させていただきましたので、説明資料に基づきまして、簡単に御紹介をさせていただきます。

まず先ほど挨拶でも申し上げましたけれども、南海トラフ、まさにいつ来てもおかしくないという状況の中で、先だって臨時情報が出ました。大分いろんな混乱ということがありましたけれども、まずはいろんなことを体験するということが大事かなというふうに思っております。そして、被害想定の見直しがありました。若干減ったところがあるんですけど、大事なことは、準備さえしておけば相当守れるということも今回の発表がありました。

次のページを御覧いただければ、そのために何をするのかというのがまさに大事になってくるんだろうと思いますけれども、岐阜県ではまず被害想定を見直して、その中でただ多いか少ないかというよりは、その後で何をしていくのかということが求められると。

そこで、岐阜県では「政策オリンピック」といって、テーマを示して県民の皆さんからいろんなアイデアを募るという形で今政策を展開しておりますけれども、まずは2つ防災絡みで、第1弾でやりましたのが「季節に応じた住民参加型訓練」ということで、まず危ない危ないと言っているだけでは駄目で、やはりみんなが参加したくなるような防災訓練。

特に、最近町内会が成立しないという問題もありますので、子供から大人までみんなが入れるようにということで、おかげさまで非常にたくさん応募がありまして、しかもやっぱり子供たちに選ばれるということで、中学生・高校生・大学生と大人によって1次審査をやり、最終審査の金・銀・銅を小学生に決めてもらうことにしました。非常に盛り上がりまして、小学校5年生の子どもたち、3つの学校に選んでもらったんですけど、その議論がもう大人顔負け、やっぱり視点がいいなというがありました。

そこで、まずは県内で防災訓練を全般的にやろうと。みんなが参加できるというのが一つ。

政策オリンピック第2弾は、今度は「ふたつのふるさと事業」ということで、先ほど申しました、岐阜県は被災県であると同時に、恐らく被災者の方を受け入れる県にもなると。私も東日本大震災のときに、ちょうど商工労働部長で福島の方の受け入れをやったんですけど、実際に来ていただいて驚いたのは、ほとんど飛騨高山なんです。何でかと聞いたら、知っているからと。人は知らない土地には避難しないということが分かりましたので、今のうちに交流をしようと。

今回も実は、三重県さんのところと池田町で始めさせていただきますけれども、まずは

小学生、中学生の間で交流をしようじゃないかと。それでお互いに行き来する中で防災訓練をしたり、いろんな地域のことを知っていただいて、いざとなったら胸を張って逃げてきてくださいと、そういう場所をつくろうということで第2弾をやらせていただいております。

これまた広げてまいりますので、笠松のほうでは地域を特定せずに参加したい方を募つてやっておりますので、そうした準備、地震は避けられませんけど、起きたときに直ちに動ける環境、そうしたものを皆さんと協力してやれればということで進めさせていただいております。

岐阜県からは以上でございますので、今度は順番をひっくり返して、浜松市さん、名古屋市さん、三重県さん、愛知県さんの順番で御発言をいただけますでしょうか。

では、浜松市さんからよろしくお願ひします。

【中野市長】

はい、ありがとうございます。

我々浜松市、昨日も若干小さな揺れがありまして、それから先々月7月末には揺れこそなかったものの津波ということで避難もしたところでございます。そういったようなことを加えて、先ほど江崎知事の資料にもありましたけれども、我々浜松市の辺り、最近の被害想定では真っ赤になっているような、そんな地域でございまして、いずれ来る南海トラフ地震も人ごとでなく、備えなければいけないというような状況にあるというふうに思っております。

また、加えて、このところ度々線状降水帯がかかるというようなことがございまして、雨の被害のほうも大分出ていると。そういうこともあって、今市民の方お一人お一人に、もう一度御自分の防災対策の見直しをということでお願いしているところでございます。

そういった中で、今何よりも優先してやっておりましたのが、「わたしの避難計画」ということで、いざ災害があったときに自分がどういう行動を取らなければいけないのかというのをお一人お一人につくっていただく、それを進めているところでございます。

今のところ、市内には787の自主防災隊があるんですけれども、その役員向けに今講習をやっておりまして、さらに役員の方が講師として市民の皆様に広めていただいてつくっていただく。「わたしの避難計画」ができ上がりましたら、冷蔵庫とか、分かりやすい場所に貼って、いざ何かあったときには、この自分の避難計画に従って直ちに避難の行動を起こす、そういうことを目指して取組を進めているところでございます。

それからもう一つ、災害時の官民連携の被災者支援体制の整備でございます。先般の石川県の能登半島地震、我々浜松市からも大分応援要員を出しましたし、また地域からボランティアも送っていたところでございます。それによる実体験から申し上げましても、被災者の支援、これは行政のマンパワーだけではとても無理ということ。加えて、平時から関係する団体それぞれが何を得意とするか、何が不得意か、そういった特徴を含めて理解

をした上で、お互い無理を言えるような関係を築いていくこと、それが重要だということを思ったところでございます。

そういうことも踏まえまして、いろんな専門性を持つN P Oとか、ボランティアとか団体、企業、そういった多様な組織との連携を日頃から深めていこうということで、今官民連携のいざというときの被災者支援体制の整備を進めているところでございます。

最終的には、被災者支援の漏れとかムラとか、そういったものがなくなるように、各支援団体をコーディネートできる災害中間支援組織、そういうものをつくって災害に強い浜松、その地域づくりを目指しているところでございます。以上です。

【江崎知事】

はい、ありがとうございました。

新しい取組の御紹介、ありがとうございました。

では、名古屋市さん、お願ひします。

【広沢市長】

それでは、名古屋市における南海トラフの地震対策について御説明をさせていただきます。

まず、この名古屋におきましても、南海トラフ地震の被害想定の再検討、こちらを進めておりまして、この被害想定、公表から約10年が経過したという中で、その間各地で様々な大規模地震が起き、その中で新たな課題が顕在化をしてきたという、こういう状況を踏まえまして、最新の知見に基づく新たな被害想定調査を実施しまして、そしてそれを防災対策の推進につなげるということでございます。

続きまして、要配慮者への支援でございますけれども、要配慮者が安心して避難生活を送れる、このために指定避難所における福祉避難スペースを設置、そしてまた福祉避難所の確保、こちらを進めております。

また、福祉サービス事業者の協力や、本市が委託しました作成支援員によります避難行動要支援者の個別避難計画作成を推進しまして、地域提供の同意を得た場合は、計画は要配慮者が参加する地域の訓練等に活用することで、実効性のある計画となるように進めてまいります。

続きまして、帰宅困難者対策の推進でございますが、こちらは大規模な地震発生時には必ず帰宅困難者、こういうのは発生するものでございますので、その安全の確保、そして都市機能の継続を図るために、この計画、そして防災計画に基づきまして、官民連携による一体的、計画的な対策を実施しております。

続きまして、防災訓練の実施でございます。

毎年行っております各区の総合防災訓練におきましては、発災時同様にあらゆる広報手段を使用して、地震速報や避難情報を発信する全市一斉情報伝達訓練を実施しまして、安

否確認、そして避難誘導などを行なながら、地域住民の方に実際に避難をしていただく、そういう訓練も実施をしているところでございます。各区の会場におきましては、地域住民だけでなく、事業者、ボランティアなど多様な主体と連携をして、平時から協働の輪を広げているというところでございます。

続きまして、地区防災カルテを活用した地域防災活動の推進でございます。

この地形、歴史、災害リスク等の地域特性や防災活動など、それらの情報を学区ごとにまとめた防災カルテを活用しまして、防災・減災に向けた取組を推進してまいります。

最後に、防災人材育成方針の策定でございますけれども、これらの防災意識の高い社会の構築に向けまして、様々な意識の変革、行動変容といった、そうした視点から、この人材の育成方針を定めて、全市一丸となって防災人材の育成を推進するというところでございます。

こういうことを通しまして、来たるべき南海トラフに備えたいと考えております。以上です。

【江崎知事】

はい、ありがとうございました。

やはり訓練の重要さというのを改めて感じたところでございます。

それでは、三重県さん、お願いします。

【服部副知事】

三重県でございます。

南海トラフ地震、本当にいつ来てもおかしくないということで、今日かも分かりませんし、明日かも分からぬということで、いろいろ災害対策を進めているところでございます。

まず、大きな地震が来ますと、津波、それから火災、家屋倒壊、孤立地域の発生、いろいろ課題はありますけれども、より大きな課題がやっぱり発生していくということで、こういう点を十分注意しながら対策を進めているところでございまして、まず津波につきましては、なかなか南部のほうを中心に、高台といつてもすぐ逃げられるところばかりではございませんので、津波避難タワーの建設を順次進めておりまして、県の補助制度ということで支援をさせていただいているところでございます。

それから、大規模火災につきましても、能登半島地震のときもなかなか消防車からの消火ができないという状況もございまして、こういったことも考え併せて、県でバケットを購入いたしまして、自衛隊と連携して、最終的には空中消火、こういったことにも備えるような対策を進めております。

また、家屋の倒壊につきましては、シェルターの補助制度も含めまして、徐々に補助金を強化、増額をしているところでございます。孤立地域につきましては、特に南部、それ

から山間部、こういったところで非常に多く孤立地域が発生するということで、現在200人ぐらいをつかんでおりますけれども、さらに実態調査をいたしまして、物理的な孤立、それから情報孤立、こういったことも何とか防げるように対策をする必要があるというふうに考えております。

特に能登半島地震のときには、翌日から職員を出しまして、これは県職員だけではございませんけれども、延べで約1万8,000名の方、県・市・町の職員が支援をしてきたところでございます。そういうことで多くのところから気づきを得まして、80項目99の取組ということで、1冊の本にまとめた形で一つ一つ対応させていただいているところでございます。

特に能登半島地震を踏まえた取組としては、スターリンクあるいは衛星電話の整備、こういったことへの支援、それから一番最初出したときに、なかなか職員の寝る場所もない中で活動してもらったということもありますので、災害即応出動車ということで、職員が寝泊まりできるような車の購入を既にいたしました。また、トイレカーについても近々入るような形で進めております。

それから、今年度から命を守るための市町に対する総合補助金というのを新たに創設いたしまして、市や町の避難所の整備、こういったことについて県として補助をさせていただいているところでございます。

三重県の取組は以上でございます。

【江崎知事】

はい、ありがとうございました。

最新技術も十分に生かされて、すばらしい取組だと思います。

では、愛知県さん、お願いします。

【大村知事】

それでは、2つ目のテーマでございますが、愛知県における南海トラフ地震に対する取組について、資料を御覧いただきながらお聞きいただきたいと思います。

私ども愛知県では、南海トラフ地震で昨年度末、国が新たな被害想定を公表いたしまして、本県では、死者が最大で約1万9,000人となるなど大変大きな被害が発生するという予測でございます。

こうした中で、私ども、今年8月31日に防災週間の中で南海トラフ地震を想定した総合防災訓練を田原市で実施いたしました。浜松市消防局さんには、倒壊家屋からの救出などの訓練にもわざわざ田原に来ていただいて、一緒に御協力いただきました。浜松市さんは、心から御礼を申し上げたいと思います。

さて、1ページを御覧ください。

まず、あいち防災アクションプランというのをつくらせていただいておりまして、これ

は順次改定をしてきておりまして、5年ごとでローリングして改定してまいります。今年3月に県地域強靭化計画の改定に際しまして、整備をさせていただいたということでございます。7つの柱、300のアクション項目、125の進捗管理指標も円滑に縦横斜めからしっかりと進めてまいります。

それから、被害予測調査の実施でございますが、2024年度、2025年度で、南海トラフ地震、国の想定が昨年度末、3月に出ましたが、これを踏まえた形の県独自のものを、前回もそうですがつくらせていただいておりまして、2024年度、2025年度でやって、来年6月に調査結果を発表して、必要に応じてまた地震防災対策の強化、プランを改定してつなげていければと思います。

次、2ページを御覧ください。

こうした状況の中で、私どもの取組で大きな事業として愛知県基幹的広域防災拠点の整備を進めております。国は、東京には有明と川崎の東扇島につくり、大阪・堺の埋立地につくって、私どもずっと2000年代半ばから、この中京地区、名古屋にもつくってほしい、愛知にもつくってほしいということを要請してまいりましたが、なかなかつくっていただけないもんですから、待っていられないで、ちょうど小牧の県営名古屋空港の自衛隊小牧基地の反対側、豊山町役場の北のところに19ヘクタールの用地を確保して、そちらでこの第1期、第2期ということで拠点の整備を順次進めております。用地は全て確保いたしました。

そして第1期としては、愛知県の消防学校、そして名古屋市の消防学校と両方とも老朽化してきておりますので、これを全国で初めて県と市の消防学校を一つにしてそちらに新築をしようということで、今進めさせていただいております。そして、こうした空港のすぐ西隣にベースキャンプなどのものを用意するということで、順次事業にかかっているということでございます。しっかりとこれは進めていきたいと。

それから、3ページを御覧ください。

最後に、県内各地域のゼロメートル地帯に広域的な防災活動拠点、これを県の単独事業で4か所土盛りをして、こうした防災倉庫と防災拠点を整備するということで、まず木曽三川下流域、愛西市のものは、これは2023年3月に完成して供用しております。そして、西三河南部地域、西尾市には、これは2025年3月に完成して供用している。それぞれ盛土で3メーター、3.5メーターを盛土しております。そして、今もう一つ、弥富市のものの整備に着手しております、これは盛土ではなくて、1階をピロティにしたビルといいますか、建物を造って整備いたします。それから、豊橋にも整備して着手いたしております。こうした形で、着実に進めていきたいというふうに思っております。以上です。

【江崎知事】

はい、ありがとうございました。

各地域におかれましては、既に様々な取組をされておられます。本当にすばらしいこと

だと思います。

その中で、やっぱり我々もやってみて分かるのは、災害ですから、何か訓練が悲壮な感じになってしまふとなかなか良くないかなということですが、もう一つは、どうしても我々がつくる計画というのは住民対象なんですけど、これからは観光客、特に外国人の方々に対しても、同じようにこうした避難というのは大事になってくると思いますので、そこをどうするかというのが大きなテーマかなというふうに思っております。

そして、その中でまず第1段「命を守る」、これは絶対条件なんんですけど、例えば南海トラフのような大災害になると、要するに3日か4日で終わらないということです。その後どう復興していくのか。まさに命を守った後、さあどうするのかというところで、ぜひそこは私ども提案させていただいておりますけれども、長期にわたった復興の中で、東日本大震災のとき、岐阜県に誰が避難してくるだろうかとさんざん議論した結果、まずは妊娠さん、赤ちゃんだけ引き取ろうということで、まさしく第1号、双葉町から来ていただいたんですけど、恐らく各地域が復興するときに、例えば障害のある方、お年寄りの方、やっぱり病院、医療関係の必要な方を、例えば先に岐阜県なりに引き取らせていただいて、現地に残って復興される方はむしろ頑張っていただく、そういう長期的な連携も大事なのかなという感じがしておりますので、そこはまたぜひここから先、議論を進めさせていただきたいなというふうに思っております。

そして、悲壮感のない取組というか、まずは楽しいとか面白いということを加えておけば、避難訓練、その他のところが大きいかなということも感じながらやらせていただいております。何といっても、訓練でできないことは本番では絶対できないと言われておりますので、そういう点では、皆様の取組をさらに有機的につなげていけるといいかと思いますが、せっかくですので、追加の御発言はよろしいですか。では、三重県さん。

【服部副知事】

先ほど岐阜県さんから、ふるさとの交流事業のお話をいただきました。池田町さんと、こちらの尾鷲市と既にやらせていただいているけれども、全て近くで避難できればいいですけれども、やはりそうじゃない場合も出てくると思います。普段のお付き合いが非常に大事かなと思っておりますので、また市町の意見も聞きながら進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

【江崎知事】

ありがとうございます。

やはり顔の見える関係が、その地域においてもそうですし、遠くなればなるほどそうしたこともありますけれども、子供の頃から交流があれば、岐阜県には海がありませんので、海があるところだと憧れもありますので、そうした交流の中の延長線上に、いざというときの助け合いの流れができたらいいかなというふうに思います。

特にほかはよろしいですか。

それでは次のテーマ、最後になりますけれども、アジア競技大会及びアジアパラ競技大会についての取組ということでございます。

これは、愛知県さんのほうからの御提案でございますので、大村知事さんから御説明お願いできますでしょうか。

【大村知事】

はい、ありがとうございます。

3番目のテーマということで、アジア大会、アジアパラ大会を取り上げていただき誠にありがとうございます。

まず、提案をした趣旨につきまして、お手元の資料を御覧いただきたいと思います。

まず1ページでございますが、来年の2026年9月から10月にかけて、アジア大会、アジアパラ大会を開催いたします。アジア大会は、4年に1度開催されまして、アジア45の国と地域が参加をするアジア最大のスポーツの祭典でございます。こうした形で、9月19日から10月4日、選手団1万5,000人、41競技ということで53会場でございますが、オリンピックと同規模ということです。しばらく日本ではこうした大型の総合スポーツ大会ということで、最後とはいいませんけれども、しばらく開かれないと想いますので、しっかりと進めていきたいと思います。

2ページ、御覧ください。次は、アジアパラ大会でございますが、これも同じく、アジア大会は第20回、アジアパラ大会は第5回ということでございますが、4年に1度開かれる45の国と地域から参加するパラスポーツの総合競技大会でございます。18競技、19会場を予定いたしております。

そして、本日参加をいただいている岐阜県、三重県、浜松市さんにおきましても、大会会場等でも御協力いただいておりまして、両大会の開催が交流人口を取り込んだ観光戦略など、東海地域での新たな地域振興の契機となるということなので、今回協議話題として提案をさせていただきました。

続きまして、開催に向けた取組について説明いたします。3ページでございますが、両大会の競技会場でありますけれども、基本、既存施設を最大限に有効活用して改修などでありますが、2つ新築ということで、まずは今年の7月にグランドオープンいたしました愛知国際アリーナ、IGアリーナでございまして、これは大相撲名古屋場所でこけら落としということでスタートいたしまして、8月は八村塁選手が来てバスケスクールをやり、昨日は愛知万博の20周年の記念事業をIGアリーナでやりまして盛り上りました。今度の9月14日日曜日には、ボクサーの井上尚弥選手のタイトルマッチがここであるということでありまして、大いに盛り上がるのではないかと思っております。秋はまたBリーグ、それから12月にはフィギュアスケートのグランプリファイナルもありますので、こうした形で1万7,000人規模のアリーナ、天井高は室内で30メートルということで、日本最大の

センタービジョンも作っておりまして、アリーナの規模としてはアジア最大のものでございます。これを造りました。

それと、今、名古屋市さんが瑞穂のスタジアムを改修中で、来年3月オープン予定ということで、この2つを新築、あとは既存のものを使ってということでございます。

アジア大会では、岐阜県さんにはホッケー、サッカー、そしてローイングですね。長良川のちょうど真ん中に県境がありますけれども、スタンドとかいろんな施設は全部海津市なので、そうしたこともありますので、大変お世話になりますが、お願ひいたします。浜松市さんにはアーティスティックスイミングをお願いしておりますので、よろしくお願ひします。また、三重県さんには、サッカーの練習会場として御協力ををお願いしております。何とぞよろしくお願ひを申し上げます。

そして、5ページですが、一般ボランティアは既に2万6,000人を超える応募をいただいております。また、競技や語学の関係の専門ボランティアや学生ボランティアについては現在募集中ということでございまして、また大会のランナップをしてもらうボランティアの皆さん之力、御協力も不可欠でありますので、何とぞ皆様方にもよろしくお願ひを申し上げます。

続いて、6ページでございますが、選手の宿泊拠点整備でございますが、なかなか物価高騰や円安等で大変厳しい予算、財政でございますので、経費の削減のために選手村の整備を取りやめて、クルーズ船で4,000人、そしてもう一つは、名古屋港ガーデンふ頭にコンテナハウス等で2,000人の移動宿泊施設を用意してということでやらせていただいております。今、取組を進めております。

次、7ページですが、両大会では、国の支援につきましては、6月の骨太方針におきまして両大会への国の開催支援の取組が明記されたということで、引き続き国に対して働きかけをしてまいります。

次に8ページ、観光振興に向けた取組でございますが、10月には世界放送者会議や世界報道会議を予定しております、観光PRをしっかりと呼び込みをしてまいります。また、この参加メディアを対象に、県内2空港の就航先と共に視察ツアーを実施して、広域周遊観光の促進を図ります。また、9月25・26・27・28と4日間、Aichi Sky ExpoでツーリズムEXPOジャパン2025年愛知・中部北陸を開催いたします。また、各県市さんの出展PRもよろしくお願ひを申し上げます。

最後に9ページですが、大会開催の効果でございますが、両大会の開催はアジア地域との交流人口の拡大、社会的・経済的な効果をもたらし、日本全体の成長に大きく貢献するものと考えます。両大会をオールジャパン、オール東海で盛り上げ、その効果をこの地域から全国に波及させるため、引き続き皆様方の御支援をよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

【江崎知事】

ありがとうございました。

なかなかこの地域でこれほど大きなものはないですから、みんなで盛り上げていきたいと思います。では今度はまた逆回りで、三重県さんから、名古屋市さん、浜松市さんという流れでお願いしたいと思います。

【服部副知事】

三重県でございます。

本県では、直接競技の開催がないということでございます。練習会場だけでございますけれども、ぜひこの大会の成功に向けて、機運醸成には私どもも協力をさせていただきたいというふうに考えております。

せっかくの機会でございますので、三重県としてスポーツを活用した地域活性化、それから大規模イベント等を契機とした観光誘客について、少しお時間をいただきたいなというふうに思います。

今後のスポーツの大会ですけれども、令和10年にインターハイが開催をされます。三重県では6競技を担当ということで、今事務を進めているところでございます。

また、令和17年には2巡目最後となります国民スポーツ大会及び障害者スポーツ大会、この開催が内々定ということでございます。3巡目の大会の在り方も注視をしながら、着実に準備を進めたいなというふうに考えております。

また、スポーツにつきましては、する、みる、支える、こういう機会の拡充をして、スポーツへの関心を向上させるために、国際大会誘致、それから開催への財政支援を行っております。テニスの国際大会、あるいは全日本の体操団体・種目別の選手権など、こういった開催の支援をさせていただいているところでございます。

また、アジア・アジアパラ競技大会をはじめとする国際大会などに向けて、アスリートの強化支援、ジュニア選手の発掘・育成、指導者の育成を先頭に取り組んできたところでございまして、現在でも様々な国際大会等で三重県ゆかりのアスリートが活躍をしていただいているところでございます。

こういったアスリートの活躍は、みんなに夢、活力を与え、郷土への愛着とか地域の活性化につながるというふうに考えております。アジア・アジアパラ競技大会での熱戦を繰り広げて、大会がぜひ大いに盛り上がっていいくことを期待しているところでございます。

また、大規模イベント等を契機とした観光誘客でございますけれども、今、大阪・関西万博が開催しております。2,000万人突破ということでございますけれども、関西パビリオンの中に三重県ブースも設けておりますので、こういったことを利用して、ぜひ多くの方が三重県を訪れていただけるように、また神宮の式年遷宮もございますので、ぜひ三重県への誘客を増やしたいというふうに考えております。

中部圏と連携した取組としては、先ほどもございましたけれども、ツーリズムEXPOジャ

パン2025愛知・中部北陸、こういった中で合同ブースも出展をさせていただきます。また、中経連や中央日本総合観光機構、各自治体の皆さんと連携をいたしまして、海外旅行博での情報発信、ファムトリップ等を実施していきたいなというふうに考えておりますので、ぜひ御協力よろしくお願ひ申し上げます。以上でございます。

【江崎知事】

はい、ありがとうございました。

これも本当に、誘客にとって非常に重要な機会ですので、本当に大事にしたいと思います。

それでは、名古屋市さん。

【広沢市長】

それでは、名古屋市の取組を御説明させていただきます。

まずは、この大会開催に向けた機運醸成でございます。こちらについて、3点御説明をさせていただきます。

まず初めに、1年前イベントでございます。間もなく開催1年前にあたるということでございまして、様々なイベント実施を予定しております。9月20日から10月26日にかけて、県内4か所におきまして、競技のデモンストレーションですとかステージイベント等を実施予定ということでございます。

続きまして、機運醸成の2番目としまして、アスリートによる学校訪問、こちらを行いたいと思います。アスリートによる学校訪問におきましては、両大会のPRとともに、アスリート御自身の経験から培った考え、そしてまた努力の大切さなどについて講演していくことを予定しております。

続きまして、3番目といたしまして、教育現場への展開ということで、大会への興味喚起、そして国際理解をテーマとした小・中学生向けの学習教材としてパンフレットや動画を作成、配付いたしました。また、高校生向けには、ボランティアをテーマとしたグループワーク、そして競技体験のワークショップを開催いたしました。以上、機運醸成でございます。

続きまして、会場施設や周辺地区の整備についてでございます。今回、大会のコンセプトの一つに既存施設の活用というのがございまして、その中で、メイン会場となる名古屋市の瑞穂陸上競技場につきましては、大会の開催を見据えて、この公園全体の整備を推進しているところでございます。また、他の競技会場を含め、既存施設の活用にあたりましては、様々なバリアフリー化、点字ブロック、そしてスロープ、バリアフリートイレなどのバリアフリー化を進めているところでございます。

続きまして観光施策でございますが、大会を契機に名古屋の魅力、これが国内外に発信される、こういうことも契機といたしまして様々なプロモーションにも取り組んでおりま

す。インバウンドを取り込むために、観光コンテンツ等を実施しているほか、誰もが安全で快適な宿泊施設を利用できるよう、様々なバリアフリー化に必要となる経費を補助する制度を実施しております。

最後になりますが、この大会を成功に導きまして、開催効果を全国に広げていくという取組でございます。

このアジア・アジアパラ競技大会につきましては、スポーツの振興のみならず、様々な組織の強化であるとか、国際競争力の強化などは、そういう様々なことにつなげていくということが必要になるというふうに考えております。このためには、近隣の県市を中心とした広域連携が何より重要であるというふうに考えておりますので、ぜひとも皆様方の御協力をお願いしたいというふうに思います。以上です。

【江崎知事】

はい、ありがとうございます。

特にスポーツだけではなく、教育に展開することがやはり大事かなということを改めて学ばせていただきました。

それでは、浜松市さん、お願いします。

【中野市長】

浜松市でございます。

我々浜松市では、アーティスティックスイミングが9月26日から28日までの間、開催されることとなっております。会場につきましては、「フジヤマのトビウオ」であります古橋廣之進先生の名前を冠しました古橋廣之進記念浜松市総合水泳場、愛称をToBiOと言っております。こちらが会場となるわけでございます。現在、このToBiOをアジア大会に向けて大規模改修を行っている最中でございまして、これがこの秋には完成をいたします。したがいまして、来年のアーティスティックスイミングの競技につきましては、リニューアル後のより快適な状態で選手の皆さん、観客の皆さんをお迎えできるのではないかというふうに思っているところでございます。

次のページにまいりまして、開催中には我々浜松市といたしましても、浜松を訪れていただける方々に市の魅力を知ってもらおうということで、様々な事業展開を考えているところでございます。見るべきところがたくさんありますし、またウナギ、ギョーザをはじめ、おいしいものもたくさんあります。御来訪いただいた方々には、ご満足いただけるようにおもてなしをさせていただきたいと思っております。ぜひ多くの皆さんにお越しをいただきますよう、お待ちを申し上げております。以上です。

【江崎知事】

ありがとうございました。

本当にあらゆる機会を捉えて、地元のいいものを発信できればいいかなというふうに思っております。

それでは、最後に岐阜県のほうから。岐阜県では、先ほど大村知事さんから御紹介いただきまして、ホッケーとサッカーとローイングということでございます。

ホッケーは、本当に国内屈指のスタジアムもあるんですが、今これに向けて、先ほど名古屋市さんからもありましたように、これを機に人工芝の張り替えの工事をして、ホッケーといえば、というような形で進めていきたいと思っております。そして、サッカー、長良川の競技場をお使いになるというのと、そしてこれも先ほどありましたローイングです。川の土地に境はありませんので、そういう意味では連携としては非常にいいかなというふうに思っております。こうした岐阜の場合、南のほうは本当に水が豊かということを存分に生かせばいいかなというふうに思っております。

そして、今日も少しお召し上がりいただきましたけれども、本当にこういう機会で、初めて日本をという人も少ないかもしれませんけど、特にアジアの方々は日本はやっぱり憧れの地でもありますので、その中でスポーツとともに、こうしたいろんな食材、観光、文化に触れていただけることによって、このアジア地域がまた全体としてまとまり、平和、そして経済発展につながればいいかなというふうに思っております。

そういった中で、まさに今皆様方から御紹介いただきましたように、いかにこのアジア競技大会、アジアパラ競技大会を意義あるものにしていくのかというのがすごく大事だというふうに思っております。

まとめということではありませんけれども、本当に多くの方がいらっしゃる中で、スポーツ選手だけではないと。実は昨日、岐阜県では、東京で今度世界陸上があるんですけども、カナダの選手のホームタウンを岐阜県はやっておりまして、その事前合宿のイベントをやったんですけども、実は子供たちにやってもらつたんです。特に中学生、高校生を中心に、小学生も含めて、100人ぐらいカナダの選手が来られた中で、中学生、高校生の方々が一生懸命やっていました。その中で一番うけたのは、カナダの国歌を中学生が英語とフランス語で歌うんですけど、ものすごく盛り上がりしました。そして、司会進行も全部高校生が英語と日本語でやるんです。本当に意義ある会になったなと思いますし、先方からは、地球の裏側まで来てここまで歓迎されるというのは本当にすばらしかったと。恐らくそれを聞いた子供たちにとっても、こうした取組というのは本当に一生心に残るかなと。ぜひ、このせっかくのアジア競技大会ですから、アジアと共に、みんな本当に子供たちも含めて教育、そして文化、こうした取組になるといいかなというふうに思っておりますので、ぜひ連携をして進めていきたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

特に追加の御発言、よろしいですか。はい、ありがとうございます。